



くりこま高原自然学校

耕英寮

KŌEI RYŌ



耕英寮とは……

耕英寮はくりこま高原自然学校の運営する不登校・引きこもりのための長期寄宿制度です。2000年より寄宿制度を開始し、これまでに100名以上の青少年を受け入れてきました。耕英寮は「創造的な生き方」が基本姿勢です。寮生はくりこま高原の豊かな自然に囲まれた中で、スタッフ、他の寮生、国内外から来るボランティアさんなど様々な人との共同生活を営みます。

寮生は規則正しい日常生活を基本としています。農作業や家畜の世話などの日常的な「生活を創る体験」と、登山、キャンプなどの非日常的な「自然体験・冒険体験」を積み重ね、大自然や仲間を感じ、自分を省みて、自律した精神と多様な感性を育みます。スタッフは24時間体制でサポートを行い、寮生の主体性を尊重しながら「**冒険教育**」や「**体験学習法**」の考え方を取り入れた指導を行い、寮生の「**生きる力**」を育みます。家庭や学校と連携し、家庭教育・学校教育では十分できない体験を通じた学びの場として、それぞれを補完し合う教育の場として活動しています。

アクセス



新幹線で
東京駅→仙台駅→くりこま高原駅
※仙台駅～くりこま高原駅間は、
バス、無料送迎バスが運行されています。
※仙台駅～くりこま高原駅までは、
くりこま高原駅まで送迎いたします。



くりこま高原自然学校

1996年創立。野外教育、冒険教育を通じて青少年の健全育成を支援する民間の野外教育事業所として活動を開始。2000年から不登校・引きこもりに悩む人を支援する寄宿制度を開始。現在は「森のようちえん」「ハイオニアキャンプ」「耕英寮」と幼児から青少年の健全な成長に支援と悩みを抱える人たちの課題解決の支援を行っている。

お車で

仙台方面から

東北自動車道「若柳金成IC」を降り左折、3km程直進して国道4号線に交わったところを、再び左折。国道4号線を1km程南下した信号「沢辺神林」で県道42号線に右折。道なりに栗駒山方面に登ります。

盛岡方面から

東北自動車道「一関IC」を降り左折、国道342号線を須川温泉-蔵美渓方面へ。蔵美渓手前を左折し、市野々を経由して日照田から県道42号を栗駒山方面へ登ります。

※いずれからも「栗駒山への道」「ハイルザーム栗駒」「いこの村」「オートキャンプ場」「イワカミ平」などの看板を追って登ってください。
途中、「駒ノ湯十字路」を、「世界谷地温泉」方面に左折し、「熊谷養魚場釣り堀」を過ぎて600mほど先、左手にあるログハウスが「くりこま高原自然学校」です。

「耕英」ってどんなところ？

栗原市栗駒耕英は宮城県北西部に位置しています。くりこま高原自然学校のある耕英地区は、栗駒国定公園の中心である栗駒山の中腹（標高614M）にあります。耕英地区は10月中旬に初霜、11月上・中旬に初雪が降り、積雪は2月が最高で2～3メートルにもなります。戦後まもない1947年（昭和22年）より、満州（現中国東北北部）からの引揚者らが入植し、開拓が始まりました。それ以前の耕英は駒の湯温泉の一部を除き、密集したフナの大木に覆われた国有林で、ふもとの町とは細い登山道で結ばれていました。ここを訪れる者といえば夏山登山者と湯治客のみでした。入植するにあたって、開拓団の名称が必要になり、宮城県丸森町耕野地区から入植した彼らの「耕野より英（秀）だたものにしよう」という願いから名づけられました。夏でも低温で冷涼な気候を活かした、イチゴや大根などの農産物、養殖発祥の地でもあるイワナなどが特産です。近年は花卉の生産も行われています。

お問合せ



くりこま高原自然学校

〒989-5371

宮城県栗原市栗駒沼倉耕英中57-1

TEL/FAX : 0228-46-2626

E-mail : info@kurikomans.com

URL : kurikomans.com

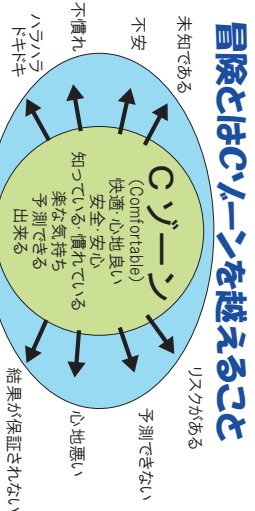
耕英寮

検索

冒険教育とは

冒険体験とは、未知、危険を伴う、不慣れ、予測が難しい、精神的に不安、ハラハラ・ドキドキ、結果が保証されていない、成功するか失敗するのかわからない、などという状態を体験することです。

冒険の反対をC (Comfortable) ゾーンと呼んでいます。知っていること、安全であること、安心できる、快適な状態、楽な気持ち安定している、予測もつき対応ができる状態を指します。このCゾーンから出ることが冒険体験と定義しています。この冒険体験がもっとも大切に考えているのが“自発的行為”です。自分で考え自分で判断し自分の意志で行動を起こすことです。自発的にCゾーンから出ることが大切で、人から言われてやることは本来の冒険とは言えないということです。

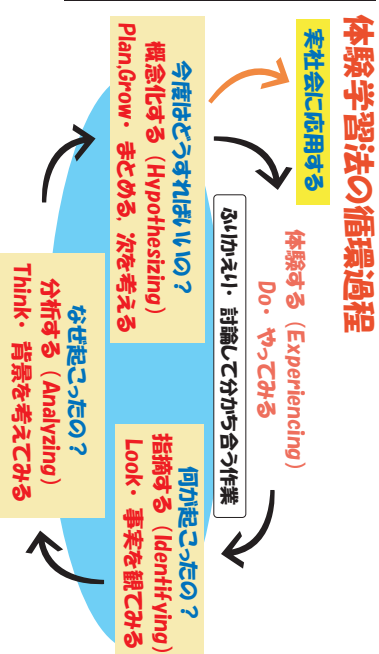
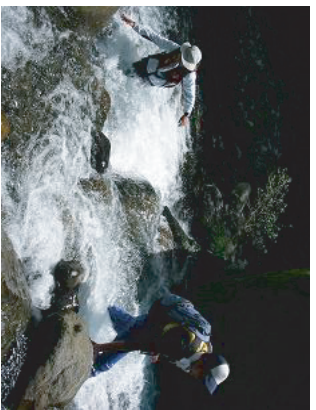


体験学習法とは

体験を通じて深い学びにするためには、学びの循環過程を経なければなりません。体験をした後に振り返る作業をします。体験を振り返り、その時に何が起こったのか事実を挙げます。そして、なぜそのようなようになったのか分析します。さらに、新しい補法を生み次の体験へ生かします。このように最初の体験から循環過程をへて、次の体験へつなげることが大切です。

特に失敗したときは学びのチャンスになります。この体験学習を諦めずに続けることで失敗が失敗でなくなり、いつか成功へ導かれるのです。途中で諦めることは失敗として残るのです。

自然体験活動は、冒険の要素と体験から学ぶ要素に溢れている自然環境の中での活動だと言えます。無限大の冒険と、無限に広がる学びの世界が自然体験活動には存在しています。



生きる力とは

「いかに社会が変化しようとして、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力であり、自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心など豊かな人間性である。」1996年中央教育審議会

自然が教えてくれたこと

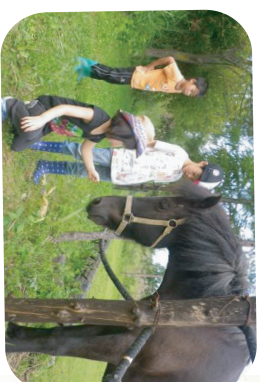
「冒険体験にはワクワク・ドキドキした弾む心があります。夢や希望には困難や課題を乗り越える力があります。雨が降ります。でも私たちは、雨の中でも、風が吹いても、雪の中でも、何かに熱中して熱く活動することが無意味なことを自然は教えてくれます。生きることは、取り組む人の心の有様が一番大事なことを教えてくれます。平和で健康で豊かな暮らし。人類誰もが望んでいる社会は、夢と希望があれば、いつか実現すると信じています。」代表：佐々木豊志

ある日の耕英寮

- 6:30 起床
- 6:45 動物の世話、朝食づくり
- 7:30 朝食
- 8:00 清掃
- 9:00 日中の活動(農業体験、沢遊び、山登りなど)
- 12:00 昼食
- 13:00 日中の活動のつづき
- 16:30 動物の世話
- 18:30 みんなで食事作り・入浴・など
- 夕食・その日の振り返り
- フリータイム(入浴など)
- 寮生ミーティング(次の日の予定決め)
- フリータイム
- 22:00 消灯



Life in KURIKOMA



施設概要

受け入れ可能人数…男子13名 女子5名
スタッフ体制…住み込みスタッフが24時間体制で対応します
動物…馬1頭、犬4頭、ヤギ1頭、羊1頭、ニワトリ、ウサギ



フィールドマップ

雨が嫌だとか、風が嫌だとか、雪が嫌だと言っても、人間の感情に関係なく、雨が降り、風が吹き、雪が降ります。でも私たちは、嫌なことや、辛いことを自分以外の誰かのせいにとしたり、社会や環境のせいにとしたりすることができません。夢と希望を持っていて人は、ワクワク・ドキドキしながら、目の前の課題を解決し、新しい人生や社会を拓きます。平和で健康で豊かな暮らし。人類誰もが望んでいる社会は、夢と希望があれば、いつか実現すると信じています。」代表：佐々木豊志